

学級経営 黄金の3日間 (前編)

「特別支援を要する子の担任に必要な黄金の三日間を成功させる基本スキル」より

明治図書 甲本卓司・大恵伸昭 編著

書店の教育書コーナーにはマニュアル本があふれ、ネット上には無数の事例が紹介されています。いわゆる“指導技術”“教育技術”といったところでしょうが、まがい物もたくさん紛れています。教育はマニュアルではないことは言うまでもありませんが、有効なスキルを身に付けることも大切です。指導方法を知らないで、指導できるわけがないのですから。多くの本を読んだり、真似たりして、自分にあった指導技術を身に付けるとよいと思います。

I 特別支援を要する子どもたちをひきつけ、黄金の三日間を成功させる学級経営の基本スキル1

[1] ほめて、しつける

大恵伸昭

- 叱ってしつけるのではない、ほめてしつけるのが鉄則である。
- どのような場面でほめることができるか、事前にシミュレーションしておくこと。
- ほめる場面を意図的に作り、ほめるべきことをしっかりほめる。無意味にほめてはいけない。

[2] 見通しをもたせることで、安定する

- 見通しがもてないと不安定になる。
- 少しでも不安を軽減するために、予定を明確にして伝える。箇条書きで示す。
- しかも子どもたちに分かる方法で伝える。口頭で、伝えつつもりではダメ。

[3] 落ち着いて取り組むことのできる教材を準備する

- 教室がシーンとなるような教材で、一度良い状態を経験させる。その瞬間にほめる。
- どういう状態がよい状態か、理想の学級の雰囲気を感じさせる。

[4] 係活動は一人一役にする

- 一人一役で、一生懸命に取り組む。責任の所在がはっきりする。
- 見通しをもって活動できる。繰り返し活動し、習熟できる。ほめる機会が増える。

II 特別支援を要する子どもたちをひきつけ、黄金の三日間を成功させる学級経営の基本スキル2

[1] 小さいうちにアドバルーンをたたく

大恵伸昭

- どこまで許されるか試してくる子どもには、毅然とした態度を示す。
- 姿勢の崩れ自体が、アドバルーンになっていることもある。
- プリントや連絡帳を持ってこさせたときの対応、提出の仕方、礼儀の指導をしていく。
- 教師の前では、礼儀正しくしないといけない、これを徹底してすり込む。

[2] 特別支援を要する子が複数いる場合の座席配置のポイント

- 座席の配置が、学級経営の成否を左右する。教師がよく考えて実行すること。
- 気になる子は前に置く。隣の子は優しく真面目な異性。

[3] 個より全体を優先し、他の多くの子を味方につける

- 不規則発言は無視し、過剰に取り合わない。態度で示す。
- 周りの子を味方につける。暴言や不規則発言は許されない雰囲気をつくる。
- 子どもを癒す5つのスキルを使う。見つめる。微笑む。話しかける。触れる。ほめる。
- これは絶対にダメという行為と、流してもいい行為と区別して扱う。

[4] 保護者と良好な関係を築く

- 保護者からの要望を宝物と考える。要望はまずいったん聞く。
- すぐにできることから話していく。できるだけ肯定的に受け止めることが大切である。
- 次に、できそうなこと、難しそうなことの順に伝える。
- できないことを、安易に約束するのは厳禁である。
- できるだけ複数で対応する。

学級経営 黄金の3日間 (後編)

「特別支援を要する子の担任に必要な黄金の三日間を成功させる基本スキル」より

明治図書 甲本卓司・大恵伸昭 編著

VI 発達障害の子どもが複数在籍するクラスを担当した時の、黄金の三日間のドラマ

- [1] 持ち上がりで、発達障害の子どもが複数在籍するクラスの担任になる 大石 明子
- 「えー、またかよ」の子どもの声。一瞬、心がずしりと重たくなった。
 - 多少の言葉には動揺しない。明るく、元気に、堂々とスタートする。
- [2] 春休み、四月のスタートに向けて準備をする
- 学級のシステム、学習のシステムをつくる。1年間、貫き通すこと。
 - 教師の目線の力が大切である。一人一人を目で徹底する。目線を全体に配る。
 - 教師が言ったことは、必ず実行する。一度言ったことは、どんな小さなことも見過ごさない。
- [3] 知的な授業で、子どもたちを熱中させる
- 子どもたちも驚きの連続、熱中する授業ができた。
- [4] 黄金の三日間が終了、これからは勝負である
- 明るく対応すること、そして、担任は味方だということをしっかり感じさせること。

X これだけはやってはいけない、黄金の三日間でのNG対応

大恵 信昭

- [1] NG対応1 甘やかせて、子どもの言いなりになり、何でも受け入れる
- 優しくはいつでもできる。厳しくらいでちょうどよい。
 - 教師を軽んじるような言動は絶対に許してはいけない。
 - 教師の言動に一貫性を持つ。
- [2] NG対応2 無計画、行き当たりばったりで、予定を変更する
- 登校してから下校するまで、子どもが困らないようなシステムをつくる。
 - 予定の安易な変更は、子どもたちを混乱させる。
 - いろいろな場面、ケースを想定して、ゆとりをもった計画を組んでおく。
- [3] NG対応3 教えずに、できないことを叱る
- 教えずに叱るのではなく、教えてほめる。
教える → できる → ほめる → よい面が強化される。(自己肯定感、自尊感情)
教えない → できない → 叱る → 悪い面が強化される。
 - ほめることで、良いサイクルが生まれる。
 - 子どもたちの行動を区分し、はっきりしたスタンスで指導することも効果的である。
増やしたい行動 = ほめる
できたら減らしたい行動 = 意図的に無視する
絶対に減らしたい行動 = 止める、叱る

NGあれこれ この時、あなたはどのように対応しますか？

例1：教師「算数では、赤鉛筆を使います。持ってきて下さい。」

子供「先生、赤のボールペンでもいいですか。」

例2：教師「差別は、絶対に許しません。」

子供 隣になった人とほんのわずか席を離す。

例3：子供「先生、給食を残してもいいですか。」

学年経営方針
学級経営方針を
1年間
貫きましょう！